



### 『虹いろ図書館のへびおとこ』

櫻井 とりお || 著  
河出書房新社

小学 6 年生の転校生ほのかは、いじめにあって学校に行けなくなってしまう。町の図書館で、半分緑色の肌をした司書のイヌガミさんや、いつも書庫にいる中学生スタビーズと触れ合ううち、そこが安心できる「居場所」になっていくのだけれどー。

人のことも、世界のことも、「知ろうとしなければわからない」。ほのかが小さな足で踏み出す一歩は、きっと広い世界につながっています！



### 『文字の読めないパイロット 識字障害の僕がドローンと出会って飛び立つまで』

高梨 智樹 || 著  
イースト・プレス

重度の識字障害で読み書きが困難な少年が「音声読み上げ機」など、現代ならではのテクノロジーを駆使し、才能を活かして 18 歳でドローン操縦・空撮会社を立ち上げるまでが描かれています。

様々な問題と向き合い、試行錯誤することで、自分の未来は切り拓ける。希望がみえる 1 冊です。



### 『あしたの幸福』

いとう みく || 著 松倉 香子 || 絵  
理論社

中学 2 年生の雨音は突然父を亡くし、はじめて会った生みの母と父の恋人との奇妙な共同生活が始まった。

大人たちの事情と思春期の複雑な思いが交錯する中で、雨音は次第に人を頼り、自分を出せるようになっていき…。

幸福とは何かを、そっと読む側に伝えてくれます。



## 図書館おすすめブックリスト

2021 年 9 月発行

編集・発行 砺波市立図書館



ココロふるえる本との出会いで  フル充電!!

### No.16 人生クリエイト(中・高校生から)



### 『ろうの両親から生まれたぼくが聴こえる世界と聴こえない世界を行き来して考えた 30 のこと』

五十嵐 大 || 著  
幻冬舎

耳の聴こえない親のいる聴こえる子 (CODA) である著者は、成長するにつれて周りとの違いに苦しみ、聴こえない母が参観日に来ることを拒んだり、友達から疎外されたりするようになります。母との関係に悩む中でも、母はいつも優しく、それがさらに自身を追いつめていき、家を出て自立することにしました。その過程で、著者が考えた事や体験した事が記されたノンフィクション作品です。





### 『スベらない同盟』

にかいどう 青 || 著  
講談社

クラスの人気者「レオ」は、担任からいじめの標的になった転校生「ケイ」の面倒をみるよう頼まれます。ケイを人気者にするため、文化祭でコントをすることにした2人。しかし、文化祭まであとわずかというときに、レオはクラスから弾かれ、ケイからも突き放されてしまいます。レオはどうなるのでしょうか？まぶしくて、ちょっぴり切ない青春ど真ん中の1冊です。



### 『最後の講義 1000年後のロボットと人間』

石黒 浩 || 著  
主婦の友社

著者は、自分そっくりのロボットを作ったり、人間とロボットが共演する演劇を行ったりと、新しい試み続けるロボット研究者。不思議なことに、演劇では、人間の役者よりもロボットに心を感じた観客が多くいました。心とは一体何なのでしょう？ロボットを通じて、「人間とは何か？」を考えます。各分野のスペシャリストが語る「最後の講義」シリーズは他にもあります。



### 『虫ぎらいはなおるかな？』

昆虫の達人に教えを乞う』

金井 真紀 || 文・絵  
理論社

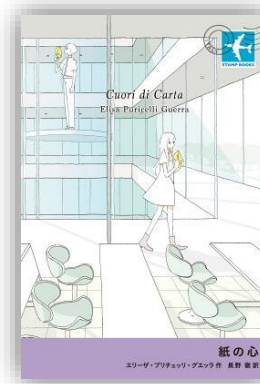
虫ぎらい歴40年を超える著者が、苦手を克服すべく、昆虫館元館長や昆虫陶芸家など、虫の達人7人に話を聞きに行きます。「虫ぎらい」の話は、人間同士の付き合い方や、差別・偏見の問題とも重なっていき、著者の豊かな発想にハッとさせられます。

優しい文体とイラストに癒される対談集です。嫌いの先には面白い世界が待っていますよ。



### 『紙の心』

エリーザ プリチェッリ グエッラ || 作  
長野 徹 || 訳  
岩波書店



「はじめまして、だれかさん！」

子どもたちだけが集められた研究所の、図書室の本から少年が見つけた手紙。会わない約束を交わし、少女との文通が始まった。顔も名前も知らない相手を想像し、手紙を交換するうち、2人は次第に惹かれあっていく。

少年と少女は、誰で、どこに住んでいるのか。その謎はやがて驚きの真実が変わります。



### 『ヤングケアラーわたしの語り 子どもや若者が経験した家族のケア・介護』

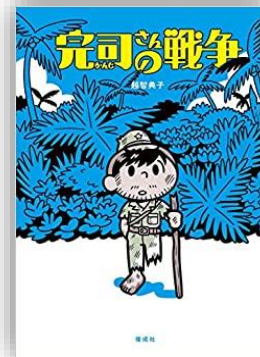
澁谷 智子 || 編  
生活書院

「ヤングケアラー」とは親やきょうだい、祖父母などの世話や介護を担っている子どもや若者のこと。その大変さや責任の重さをひとくりにされると、一人ひとりの、簡単に答えの出ない感情が置き去りにされることがあります。この本では元当事者たちが、自分の言葉で経験を語っています。支援する人にも、ケアの最中にいる人にも、思いを重ねて考えるきっかけになるのではないのでしょうか。



### 『完司さんの戦争』

越智 典子 || 文 コルシカ || 絵・漫画  
偕成社



1922年、新潟で生まれた渡辺完司さんは、15歳の時に世界を見たいと仕事で満州へ。その後、徴兵されガム島での戦いで左足を失います。島での過酷な生活を経て、米軍捕虜になりアメリカで手厚い看護を受けますが、日本では、死亡した事になっていて…。

「人生のいい時代」を戦争に奪われても、淡々と穏やかに語る完司さんの姿が心にしみませます。

